

令和4年10月15日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム

令和4年度 第9回

真剣に考え、行動する

おはようございます。マスクをとってお話させて戴きます。

先日、若い女性の方と話をしたのですが、その方が「コロナも大分収まったようで、そろそろ遠くに出かけてみたい」と言っておられました。皆さんは如何でしょうか？ コロナが下火になった、もうそろそろコロナは終わりだ・・・というイメージ持っている方はいませんか？私の印象では、コロナはどんどん燃えさかっていると思っているので、驚きました。怖いと思うのは、世の中はメディアが何を言うかによって動かされてしまうということです。コロナが始まった最初の年、令和2年は3414人が亡くなっています。去年が14,986人。今年は、先週の時点で26,949人ですから、約10,000人増えています。日本で見れば、感染者数も死亡者数も鰻のぼりに上っています。(12月1日現在、約16,000人増)

コロナはもう収まってきたという印象を持つのは、メディアが誘導しているからです。自分で中身を確認せずにネットや新聞に書いてあったとか、テレビで言っていたからとメディアの報道を鵜呑みにすると、コロナが下火になった、もうすぐ終わるんじゃないか、共存ということだからそんなに害を与えないだろう・・・という印象を持つのでしょうか。ところが現実にはオミクロンの次をいく新しい異種のウイルスが出てきて、それが広がり始めているようです。

ですから、世の中の話やメディアの報道は見出しだけではいけない。中身をしっかり調べ、自分なりに納得のいくところまで考える必要があるということです。コロナの話は非常に分かりやすい例ですね。初年度は3000人ちょっと、2年目が1万5000人弱、今は2万6000人を超している。どこが下火になったのか？ 亡くなる人はどんどん増える一方ではないか・・・というふうに自分自身で納得するところまで調べなければいけないし、考えなければいけないということを申し上げております。

これは、開会挨拶で神藤議長が言っておられた「一日一日、真剣に考え、行動する」という話に直結します。話を気楽に聞き流していると、コロナは下火になったのだと思ってしまう。ところが真剣に向き合ってみようと思えば、自分が納得できるまで調べることに

直結するので、日々姿勢を正して真剣に物事を見つめ考える習慣が必要だということを、神藤議長が念押ししてくれたなと思います。有難うございました。

孔子の女性観

では、テーマに参ります。今日は「孔子の女性観」についてお話致します。レジュメをご覧下さい。私が読みますので、後についてお願い致します。

① し いわ 子曰く、ただ はしため 唯女子としょうじん 小人とはやしな がた な 養い難しとな これ ちか 為す。之をすなわ ふそん 近づければ則ちこれ 不孫なり。之をとお すなわ うら 遠ざければ則ちお 怨む。(陽貨第十七・25)

「女子と小人とは養い難し」は、かなり有名な科白です。ただ、誤解を招く言葉なので色々な形の広がり方があります。

「はしため」と読むのは、朱子学の朱子が「女子」と書いて「はしため」と読むという解釈をしているから、後の学者たちも皆それについて同じように解釈をしていくわけです。

論語は中国で生まれたものですから、中国の人が解釈する論語と、日本に伝わってきて日本人が解釈する論語、韓国に伝わって行って韓国で習っている論語・・・皆、それぞれ見方が違います。日本の場合は、日本にとってのいいとこどりをし、日本人にあった解釈、日本風の解釈をしています。それでも、この「女子」は多くの学者が「召使い」という捉え方をします。女性の召使いと男性の召使いと捉えている方が大多数です。ただし、自分の納得のいく読み方をして、「貴婦人」と捉える人もいますし、「奴隷」と捉える人もいます。当時の中国では奴隷は当たり前の考え方ですから、男の奴隷・女の奴隷と捉える向きはかなり多くあります。また、「妾卑」などと、かなり蔑視するような言い方もあります。いずれにしても、お好きなように読めばよいのです。貴婦人で読みたいと思えば貴婦人で捉えればよいし、召使いと捉えてもよいと存じます。

私は渋澤論語が好きなのでご紹介すると、渋澤栄一は図々しい解釈をしています。女性の召使いも男性の召使いも、使う側(渋澤栄一にすると自分)が真心を込めて相対すれば、ここの主人はこういうことをして欲しいのだろうと気を遣ってくれて、使う側と使われる側がそう違和感なく、お互いに良い関係で仕事出来るようになる。真心が大事だから、道徳的にも問題がないようにしなさい、という言い方です。

そこでちょっと渋澤栄一が聞いたら嫌がるような解説を付け加えておくと、孔子の時代、特に貴族階級の人たちは一夫多妻制・一夫多妾制で妻妾同居も当たり前、どこに手を出してもおかしくはないような男女関係でした。次の②の論語に、南子という衛霊公の夫人が

出ています。南子は淫乱で有名でした。宋の国の皇女だったのですが、衛靈公に嫁いだあとも、宋から呼び寄せた昔の男と不倫をしていた。それを周りの人たちは、眉をしかめるけれども断罪はしないわけです。

話が逸れてしまいますね。というのは、孔子の女性に関する話だけだと、大して話題がないのです。論語の中に「女子」という言葉は1つしか出てきません。「小人」は21ヶ所出てきています。1つしか出てきていない女性について話をするのはなかなか厳しい。ですから、孔子の周りに出てきた女性の話とか、その時代の女性観とかも話していかないと全体が見えないと思っています。脱線がそのまま時代背景が見えるような話にしていくつもりであります。

洪澤栄一はどう解釈したかという、召使いを使う時には真心をもって接するべきだと言っています。にもかかわらず、洪澤栄一が召使いに手を出したかどうかは分かりませんが、女性関係については「明眸皓齒に関することを除いては、俯仰天地に恥じることはない」と言っているくらいですから、女性に関して節度がなかったわけです。

ただ、明治時代は権妻（お妾）が認められていました。権妻のルーツを言えば、先ほどの中国の一夫多妻・一夫多妾です。それを日本に持ってきた結果、明治時代は正妻の次のいわゆる側妻を権妻と呼び、法的に認められていました。西郷隆盛の島妻と同じようなものです。遺産相続の時には、正妻が産んだ子供には相続権があるわけですが、権妻が産んだ子供にも確か80%の相続権がありました。

今の日本は一夫一妻制で固まっているから、そんな馬鹿な！と思われるでしょう。ですから時代が違うということ承知してお聞きになればよろしいでしょう。いずれにしても、当時の日本と中国の女性観は、ごく一部の人たちは相通ずるものがあるのだなとは思いません。

普通の解釈を致します。

「女子と小人とは養い難し」・・・女性の召使いも男性の召使いも、こうやってほしいと指示しても、なかなか思い通りに動かない。少し強いことを言うと、すぐふくれて仕事をしなくなる。全く困ったものだ。

「之を近づくれば則ち不遜なし」・・・親しくなって優しい言葉をかけたり、よくやってくれたと褒める。そうするとつけあがって、主人を主人と思わないような言動にも出てくる。

「之を遠ざくれば則ち恨む」・・・少し疎遠にしてあまり話をしないと、今度はよそよそしくなると恨むようになる。本当に召使いは扱いづらいものだ。

洪沢栄一の場合は、主人の使用人に対する態度が良くないから、つけあがったり恨んだりするのであって、主人の態度がよければ良い関係が結べる。したがって自分（主人）の態度如何で、この関係は変わる。だから自分自身をより磨こうではないか・・・としています。

やはり日本人の捉え方と、孔子の時代の中国の人の捉え方は、ちょっと違うということをご紹介致しました。

② 子南子を見る。子路説し なんし み しろよろこ ふうし これ ちか いわ よ ひ ところ てん こればず。夫子之に矢いて曰く、予が否なる所た た てん これ た たあらば、天之た た てん これ た たを厭ん。天之を厭んと。（雍也第六・26）

先程申し上げましたが、衛靈公夫人の南子は淫乱で有名でした。

「子南子を見る」とありますが、学者の先生方は大体、「見（まみ）ゆ」と読みます。「見（み）る」だと、遠くから見ることになりますが、ここは近くに寄って親しく話をするという意味合いを込めて、「見（まみ）ゆ」という読み方をします。

子路は孔子のお弟子さんですから、師匠が南子に会うのを喜ばない。師匠に対して文句をつけているわけです。

孔子が子路に対して、「お前はそう言うが、私がもし子路の疑うようなことをしているのであれば、天が天罰を下すであろう」・・・天罰が下らないのだから、私はお前が思うようなことはしておらんぞと、と一所懸命弁解をしている状況です。

子路が孔子に対して、ああいう淫乱な女性と付き合うのは困る。汚されるではないか。我々もそんなにだらしのない人の弟子かと思われるのは嫌だ・・・と師匠を攻めたわけです。孔子はそれに対して上からピッシャットは言わないで、いやいやそう言うなよ・・・と慌てた風で弁解をしている。ですからお芝居のように状況を浮かべながら読むと良いと思っています。

③ 齊人女楽を帰る。季桓子之を受け、三日朝せず。孔子行る。（微子第十八・4）

女楽と言うのは、北朝鮮の美女軍団のようなものとお考え下さい。オリンピックで北朝鮮が送り込んだ女性の方たちは、凄くきらびやかな美女を集めたということで有名でした。

孔子は魯の国で実質的なナンバーワン、今で言えば内閣総理大臣クラスに近いポジションに就いて、魯の国の中身を充実させて発展させました。ところが隣の国の齊にとっては

困るわけです。魯がもっと力をつけたら我々の国は滅ぼされる。そうならないように孔子を追い出さなければならぬ。孔子を追い出すには、魯の国の君主を籠絡すればよい。見目麗しい女性を大量に送れば、君主はついフラフラと夢中になり、必ず孔子は追い出されるに違いないと考えたわけです。

案の定、大夫の季桓子は綺麗な女性たちが城門の外で踊りを踊っているという話を聞き、平服に着替えて出かけて行きました。君主もこれにはまり、政治を三日も放り投げてしまった。孔子はこれを見て、魯の国に見切りをつけ去って行きました。

④ 子 公治長^{し こうやちやう}を謂^いう。妻^めあわすべきなり。縲^{るいせつ}紲^{うち}の中に在^ありと 雖^{いえど}も、その罪^{つみ}に非^{あら}ざるなりと。其^その子^こを以^{もつ}て之^{これ}に妻^めあわす。(公治長第五・1)

孔子が自分の娘を公治長に嫁にやると決めた、という文章です。ただ、孔子のお弟子さんたちは驚いているわけです。「縲」は縄、「紲」は繋ぐです。悪いことをしたので獄に繋がれたという意味です。

孔子が、公治長は縄で繋がれて獄に入っているけれども、それは無実の罪である。立派な人物できちんとしているから、自分の娘を嫁にやって良いと言った。

日本の今の時代では、親が結婚相手を決めるということはありませんね。これは2500年も前の中国ですから、家父長制です。孔一族の中で孔子は家長ですから、娘を何処に嫁にやるかを決める権限を持っていたわけです。その権限は自分の娘だけでなく、兄弟の娘をどこに嫁にやるかも決めることが出来ました。

と、これは大体普通の解釈ですが、嫁にやるだけでなく、親に背いてばかりでどうにもならないから卑妾として買ってもらいたい、または下僕として買ってもらいたい、と自分の子供を売ることも出来ました。権限としてそういうものがあつたと理解をすればよいでしょう。

公治長の無実の罪とは何か、いろいろな学者の説があります。いくつかご紹介します。公治長は鳥の言葉を理解できる特殊な能力があつた。或る日、鳥が公治長のもとに来て、子供が死んでいると話した。公治長がそこへ行ってみると、本当に子供が死んでいる。すぐに親の所に行って伝えると、公治長が犯人に違いないと訴えられてしまいます。公治長

は無実を訴えるけれども、鳥の言葉が分かるなどと馬鹿な話があるかということで繋がれた、という話の一つです。

こういう話もあります。雀が公冶長に、「南山で羊が虎に食われている。食べ残しがいっぱいあるが、私ははらわたを食べるから、あんたは肉を食べていい」と言った。雀の言う場所に出かけてみると、確かに羊が食べられていた。羊の角があったので、公冶長はそれを羊を飼っていた家に届けました。それが羊の角を公冶長が盗んだということになったようで、公冶長は訴えられて捕まったという話です。

最後は、牢屋にいる公冶長のもとに鳥が来て、隣の国の斉が攻めて来ていると伝えました。公冶長はすぐに戦いの準備をするよう獄吏に言い、獄吏が上司に伝えます。役人が調べに行くと、相当な大軍がいた。直ぐに魯は国として戦いの準備をし、逆に攻めかかったので大勝しました。公冶長が鳥の言葉が分かるというのは本当なのだと分かって、牢屋から出してもらい褒美をもらった、という話が出ています。

今日は女性に関する話ですが、先ほど申し上げたように論語の中に「女子」と書かれた文章は①の「女子と小人」だけですので、他に女性絡みのものを・・・と思い3つ出しました。

②は、孔子が靈公夫人と会って話をした。孔子も色には弱いという類の話です。お弟子さんに言われて弁解に努めるというのは、何か心にやましいところがあるのだろうというのを滲ませています。

③は、美女軍団を送って籠絡をしたという話です。孔子も美女軍団には弱いのかと思うけれども、そうでもない。仮に色欲が心の中にあつたとしても、政治を司る者は女性の色香に溺れてはならぬのだと孔子は言い聞かせていたし、実際に実行していたということを証明するような文章であるとお考え下さい。

④は、公冶長に娘を嫁がせたという文章です。この章句は、後に南容の妻の話が続いています。孔子には母親の違う、足の悪いお兄さんがいました。その兄の娘を、孔子が認めた南容に嫁がせたという文章があります。公冶長も南容も孔子が見込んで、自分の娘と兄の娘を継がせたわけです。

孔子は自分の一族の娘を誰に嫁がせるか決められる権限を持っていたし、それに対して女性（娘と姪）はノーとは言わずに、孔子の言う通りに嫁いでいった。家の長が言う事に女性は従うという時代背景が見えてくると思い、取り上げました。

レジュメをご覧戴くと、孔子を取り巻く女性について付記してあります。

母・・・孔子の母親の顔徴在は野合して孔子を生んだと伝わっています。顔家には三人の娘がいて、徴在が一番下の娘です。孔子の父親は叔梁紇、孔一族の紇という人物です。孔紇には9人の娘と男の子が1人いましたが、自分の跡継ぎにするような子供がいないので、顔一族に娘を貰いたいと頼んだ。それで、3番目の徴在が嫁ぎました。ただし孔紇はかなり歳をとっていたので、正式な結婚は出来ない。おまけに正妻もいるので、「野合して孔子を生んだ」という言い方になっています。野合とは、正式な手続きを踏まないで一緒になった夫婦という意味合いです。

孔子の母は祈祷師的身分の女性であると白川静先生は解釈しておられます。いわゆる巫女、恐山のイタコのような女性です。葬礼を司る一族の娘なので、孔子は小さい時から儒の知識が豊富な環境で育ちました。俗に孟母三遷と言いますが、母親が孔子を相当躰けたと捉えられます。

孔子の考えは「孔孟の学」といって後代に伝わりますが、その基本的なものの考え方は、徴在という孔子の母親によって形作られたと考えられます。孔子にとっての母親は素晴らしく偉大であり、その影響下で孔子は一生涯を過ごしたのではないかと考えています。ですから孔子と女性ということで考えれば、母親は偉大なりと捉えています。

妻・・・名前は不明です。奥さんの名前が伝わっていないというのは、日本の歴史を見ても非常に多いです。系図の中で「〇〇の娘」とよくありますね。何々一族の娘、何々さんの娘という書き方をします。名前は伝わっていませんが、曲阜にある孔廟にある墓碑に「魯国の安楽里出身」とあります。卞という一族の娘であると伝わっています。息子の鯉(り)を生んで、離婚したとも伝わりますが、真偽は定かではありません。

恒例の質問

では、恒例の質問を致します。今年も終わりに近くなってきました。今年一年を振り返ってお考え下さい。

○ 今年一年、良い日が続いたと思う方

社会が良い悪いではなくて、自分にとって良い悪いでお考え下さい。

○ 今年一年、嘘をつくことがなかったし、嘘もつかれなかったなと思う方

余分なことを付け加えます。マイナンバーカードを政府は保険証と一緒にする。今ある保険証を廃止してマイナンバーカードに一体化させ、運転免許証も一体化させると発表しています。マイナンバーカードの本音は何か。私は最初から言い続けていますが、国民という国民から税金を必ず取りたい。そのためにマイナンバーカードを作って、収入を全部

あからさまにし、銀行とも繋いで、待たなしに天引きで税金取ろうとしているわけです。

また、先日、「介護保険料を年金から天引きします、金額は〇〇です」という通知が来ました。これも、とんでもないと思いました。介護保険とは何か・・・介護に関する税金だと私は捉えています。名前を変えて税金を国民から取り上げるための最大の武器がマイナンバーカードです。政府、政治家、官僚は国民に本当のことを言いなさい！ 嘘についてはいけないと思っています。

- 今年一年、有難うということが多かったし、有難うとも言われることも多かった方。
- 今年一年、身体の手入れをよくやったと思う方。

何度も申しますが、主観です。出来るだけ身体の手入れをされるは良いと思います。

- 今年一年、自分磨きをよくやった、一生懸命人格向上に力を注いだという方
- 昨晚、眠る直前に、明日以降を過去形でイメージして眠った方

先程、神藤議長が「眠る前に“明日、一生懸命やれたなあ”と試してみよう」と言っておられました。一生懸命やろうと思うのではなくて、一生懸命やったなあと実感で思えるようになれば、手が挙がります。

三戦

最後にテーマ、時事評論を申します。先ほどマイナンバーについて申し上げたので、残りのお時間は「三戦」についてお話致します。先日、今井副理事長が「中国の三戦について」という資料を持って来てくれました。回覧致します。それから文芸春秋の10月特別号にも「三戦」が書いてありますので、ご覧下さい。

三戦とは、世論戦・心理戦・法律戦という三つの戦い方のことです。例えば、デマによってその国のものの考え方を思い通りに誘導していき、敵国の戦意を喪失させ、戦わずして属国にする。日本の防衛の中で、三戦は公式の用語として使われています。

元々は中国で2003年に人民解放軍の任務として正式に決定されたものです。それ以来、中国は着々とその手法進めています。一帯一路もその流れです。

今回ロシアがウクライナを攻めましたが、これも三戦と同じ思想です。ロシアがクリミア半島を侵略し併合した時はハイブリッド戦争と言われましたが、三戦を駆使したものです。クリミアで成功を体験したロシアは、ウクライナ全体を即座に取ろうということで侵攻したわけです。このキーワードは「三戦」です。ネットで調べれば沢山出てきますので、どうぞお調べ下さい。

私は、日本についても同じだと思っています。仙台で数日前の夜、停電がありました。テレビのニュースで報道されていたので、ご覧になった方もおられるでしょう。家の

中の電気が点滅しているので、家の人を外に出て周りを見ると、その地域一帯が点滅をしていた。そのうちテレビが消えた。それが 10 数分間くらい続いたそうです。

私はその点滅を見て、どこが仕掛けたのかなと思いました。ロシアが仕掛けたのか、中国が仕掛けたのか、北朝鮮が仕掛けたのか。三戦の中の世論戦と心理戦を日本に仕掛けてきた。仕掛けたのは何処の国だろう？ と感じました。電気が点滅しているニュースを見てそう感じたということは、私の頭が、既に日本は戦争に入っているのだと自分が思っていると実感しました。

これらを全部ひっくるめて令和 4 年を考えると、既に日本は気がつかないだけでハイブリッド戦という戦争の状態に入っている。戦争は力と力でやるものだけではない。謀略戦が始まっている。三戦の中に日本は入っていると確実に思っています。

以上で本日の講話を終了致します。有難うございました。